

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	文学国語	学年	2	類型	共通
単位数	2	教科書	『文学国語』筑摩書房				
副教材	『ちくま小説入門』・『ちくま評論入門』						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感し豊かに想像する力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めている。	【主体的に学習に取り組む態度】 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚も深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めている。
------	---	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	ことばから広がる世界 随想・評論（一）	『プラスチック膜を破って』梨木香歩	◎	○	○	第1回
	5月	物語との出会い 小説（一）	『山月記』中島敦				
	6月			○	◎	○	第2回
	7月	背後にあるメッセージ 随想・評論（二）	『実体の美と状況の美』高階秀爾	◎	○	○	
2 学 期	8月						第2回
	9月	自己と向き合う 小説（二）	『こころ』夏目漱石 夏目漱石と「こころ」・私の個人主義	○	◎	◎	
	10月						第3回
	11月	世界観を築く 随想・評論（五）	『建築論ノート』松山巖	○	◎	○	
3 学 期	12月						第4回
	1月	調べとリズム 詩歌	『小景異情』室生犀星 『サーカス』中原中也 『永訣の朝』宮澤賢治	◎	○	○	
	2月	過去との対話 随想・評論（四）	短歌・『死にたまふ母』斎藤茂吉 『死者の声を運ぶ小舟』小川洋子	○	◎	○	第4回
	3月	日常の裂け目 小説（三）	『捨てない女』多和田葉子	○	○	◎	

学習の方法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸にかかわらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会を捉えて、班やクラス全体での話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年4回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
-------	---

評価の仕方	定期考査に加え、提出物（課題、ノート、学習プリント等）、小テストの成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	古典探究	学年	2	類型	共通
単位数	3	教科書	『精選古典探究 古文編・漢文編』東京書籍				
副教材	完全マスター古典文法（第一学習社）・新明説漢文（尚文出版）						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	【思考・判断・表現】 論理的に考える力や深く共感し豊かに想像する力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めることができる。	【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。
------	---	---	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	説話1（古文編）	『古今著聞集』	◎	◎	○	第1回
	5月	小話（漢文編）	先從陳始	○	◎	○	
	6月	日記1（古文編）	『更級日記』	○	◎	◎	
	7月	思想1・2（漢文編）	儒家の思想 道家の思想	◎	○	◎	
	7月	随筆1（古文編）	『枕草子』	◎	○	○	第2回
2 学 期	8月 9月	史記1（漢文編）	項羽 劉邦	○	◎	○	
	10月	作り物語1（古文編）	『源氏物語』 「桐壺」 「若紫」	○	◎	◎	第3回
	11月	軍記物語（古文編）	『平家物語』 「壇の浦の合戦」	◎	○	○	
	12月	小説1（漢文編）	小説一三編	○	◎	○	第4回
3 学 期	1月	随筆2（古文編）	『方丈記』 『徒然草』 『玉勝間』	◎	◎	○	
	2月	歴史物語（古文編）	『大鏡』	○	○	◎	
	3月	詩歌（古文編）	八代集の世界・歌合・歌論・歌謡	◎	○	◎	
		詩1（漢文編）	日本の漢詩一二首	○	◎	○	

学習の方法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸に関わらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会を捉えて、班やクラスでの話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年4回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
-------	---

評価の仕方	予習は当然行うものとして準備する。発表、話し合いなどの日常の取組についても評価の対象とする。 よって、文法力・語彙力、漢文独特の句法・歴史、古典の知識（有職故実等）も鍛えておく必要がある。 定期考査による評価に加え、夏季・冬季の長期休暇で与えられる課題（意見文、感想文、サブテキスト等）や平常の小テストの成績などを総合的に評価していく。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	--

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	世界史探究	学年	第 2 学年	類型	I 型
単位数	3 単位	教科書	『詳説世界史』（山川出版社）				
副教材	『アカデミア世界史』（浜島書店）						

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。
------	---	---	---

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4 月	第 1 章 文明の成立と古代文明の特質	○	◎	○	第 1 回
	5 月	第 2 章 中央ユーラシアと東アジア世界	◎	○	○	
	6 月	第 3 章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	○	◎	○	
	7 月	第 4 章 西アジアと地中海周辺の世界形成	○	◎	○	
2 学 期	8 月	第 5 章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	◎	○	○	第 2 回
	9 月	第 6 章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	○	◎	○	
	10 月	第 7 章 ヨーロッパ世界の変容と展開	◎	○	○	第 3 回
	11 月					
3 学 期	12 月					
	1 月	第 8 章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	○	◎	○	第 4 回
	2 月	第 9 章 大交易・大交流の時代	◎	○	○	
	3 月					

学習の方法	・授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して世界の歴史の流れを整理・理解していきます。 ・人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 ・年 4 回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、『一問一答世界史』（山川出版社）などを活用して知識の整理を図ることが必要です。
-------	---

評価の仕方	・定期考査に加え、提出物・小テストの成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。世界史に関する知識・理解はもちろん、歴史に対する興味・関心の程度、過去の出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理探究	学年	第 2 学年	類型	I 型
単位数	3 単位	教科書	地理探究（山川出版社） 詳解現代地図最新版（二宮書店）				
副教材	新編地理資料（東京法令出版）新地理要点ノート（啓隆社）						

学習目標	社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 知識：地理に関わる諸事象や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 空間的相互依存作用や地域などに着目して、多面的・多角的に考察しそれを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養っている。
------	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 ① 地形 ② 気候と生態系 ③ 世界各地の自然と生活	地形の分布や成因について理解し、主題を設定し多面的・多角的に考察、表現する。 大気大循環のしくみや影響などについて理解した上で、自ら主題を設定し、多面的・多角的に考察し表現する。 世界各地の自然と生活に関わる諸事象について理解し、自ら主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	第1回
	5月						
	6月			○	○	○	
	7月			○	○	○	
2 学 期	8月	④ 日本の自然環境と防災 ⑤ 地球環境問題 第2章 資源と産業 ①農林水産業 ②資源エネルギー	自然環境と自然災害の關係に注目し、主題を設定し、多面的・多角的に考察し表現する。 持続可能な地球環境の開発の在り方について理解し、主題を設定し考察、表現する。 農林水産業に関わる諸事象について理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 資源・エネルギーについて理解し、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。		○	○	第2回
	9月				○	○	
	10月			○	○	○	第3回
	11月			○	○	○	
3 学 期	12月			○	○	○	第4回
	1月	③工業	工業に関わる諸事象について理し、工業立地や変化などに注目して主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	
	2月	④第3次産業	第3次産業に関わる諸事象について理解し、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	
	3月						

学習の方法	・地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養います。 ・世界各地の地域性や類似性・法則性、異文化の理解を目指します。 ・地球的な課題を広い視野から総合的にとらえ、その解決方法を深く考察します。 ・大学入試に向けて問題演習などを積極的に取り入れて、学力のレベルアップを目指します。
-------	---

評価の仕方	・定期考査に加え、提出物、小テストの成績、日頃の学習態度等を総合的に評価します。 ・地理的基礎知識はもちろん、地理的事象に関する興味・関心の程度、地図・図版・統計資料等を関連づけて、地理的な見方・考え方が身に付いたかを評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理探究	学年	第 2 学年	類型	Ⅱ 型
単位数	2 単位	教科書	地理探究（山川出版社） 詳解現代地図最新版（二宮書店）				
副教材	新編地理資料（東京法令出版）新地理要点ノート（啓隆社）						

学習目標	社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 知識：地理に関わる諸事象や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 空間的相互依存作用や地域などに着目して、多面的・多角的に考察しそれを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養っている。
------	---	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 ① 地形 ② 気候と生態系 ③ 世界各地の自然と生活	地形の分布や成因について理解し、主題を設定し多面的・多角的に考察、表現する。 大気大循環のしくみや影響などについて理解した上で、自ら主題を設定し、多面的・多角的に考察し表現する。 世界各地の自然と生活に関わる諸事象について理解し、自ら主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	第1回
	5月						
	6月			○	○	○	
	7月			○	○	○	
2 学 期	8月	④ 日本の自然環境と防災 ⑤ 地球環境問題 第2章 資源と産業 ①農林水産業 ②資源エネルギー	自然環境と自然災害の關係に注目し、主題を設定し、多面的・多角的に考察し表現する。 持続可能な地球環境の開発の在り方について理解し、主題を設定し考察、表現する。 農林水産業に関わる諸事象について理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 資源・エネルギーについて理解し、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。		○	○	第2回
	9月				○	○	
	10月			○	○	○	第3回
	11月			○	○	○	
3 学 期	12月			○	○	○	
	1月	③工業 ④第3次産業	工業に関わる諸事象について理し、工業立地や変化などに注目して主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 第3次産業に関わる諸事象について理解し、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	第4回
	2月			○	○	○	
	3月			○	○	○	

学習の方法	・地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養います。 ・世界各地の地域性や類似性・法則性、異文化の理解を目指します。 ・地球的な課題を広い視野から総合的にとらえ、その解決方法を深く考察します。 ・大学入試に向けて問題演習などを積極的に取り入れて、学力のレベルアップを目指します。
-------	---

評価の仕方	・定期考査に加え、提出物、小テストの成績、日頃の学習態度等を総合的に評価します。 ・地理的基礎知識はもちろん、地理的事象に関する興味・関心の程度、地図・図版・統計資料等を関連づけて、地理的な見方・考え方が身に付いたかを評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	日本史探究	学年	第2 学年	類型	I 型
単位数	3 単位	教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）				
副教材	新詳日本史（浜島書店）						

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解している。諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いている。	【思考・判断・表現】 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、多面的・多角的に考察し、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したことを効果的に説明するなどの力が身に付いている。	【主体的に学習に取り組む態度】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についている。また、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を持っている。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1章 日本文化のあけぼの	・日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会について学びます。集落・墓の変容から小国の形成過程を東アジア世界との交流と関連付けて学びます。	○	○	○	第1回
	5月	第2章 古墳とヤマト政権	・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて学びます。飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを学びます。	○	○		
	6月	第3章 律令国家の形成	・律令にもとづく国内統治体制について学びます。平城京における政治動向について土地政策も含めて学びます。天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開について学びます。東アジアとの関係を踏まえて弘仁・貞観文化を学びます。	○	○		
		第4章 貴族政治の展開	・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について学びます。大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化としての国風文化の展開について学びます。地方政治の展開と武士の成長過程について学びます。	○	○		
	7月	歴史資料と原始・古代の展望		○	○	○	
2 学 期	8月	第5章 院政と武士の躍進	・院政期前後の土地支配形態を踏まえ、院政期の政治・経済などを学びます。国際関係・文化の変化を踏まえ、平氏政権の特性について学びます。	○	○	○	第2回
	9月	第6章 武家政権の成立	・鎌倉幕府が全国的な武家政権に成長していく過程について学びます。モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを学びます。庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運がうまれたことを学びます。	○	○		
	10月		・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて学びます。諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開について幅広く学びます。応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及について学びます。	○	○	○	
	11月	第7章 武家社会の成長					第3回
	12月	歴史資料と中世の展望					
3 学 期	1月	第8章 近世の幕開け	・大航海時代と呼ばれる世界的背景を踏まえ、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響について学びます。織田信長・豊臣秀吉の統一事業について、その特色と意義を学びます。新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、時代背景を踏まえて学びます。	○	○	○	第4回
	2月	第9章 幕藩体制の成立と展開	・幕藩体制の確立、鎖国政策について、その影響と歴史的意義について学びます。江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点から学びます。諸産業の発達について、相互の関係やその社会的役割を踏まえて学びます。経済の発展と関連して、町人文化が形成されたことについて学びます。	○	○		
				○	○		
	3月	歴史資料と近世の展望		○	○	○	

学習の方法	授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して、日本の歴史の流れを整理・理解していきます。 人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年4回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、基礎知識の整理をはかる必要があります。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。日本史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に勘案して評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	日本史探究	学年	第 2 学年	類型	Ⅱ 型
単位数	2 単位	教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）				
副教材	新詳日本史（浜島書店）						

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解している。諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	【思考・判断・表現】 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、多面的・多角的に考察し、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したことを効果的に説明するなどの力が身についている。	【主体的に学習に取り組む態度】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についている。また、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚がある。
------	--	--	---

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1章 日本文化のあけぼの	・日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会について学びます。集落・墓の変容から小国の形成過程を東アジア世界との交流と関連付けて学びます。	○	○	○	第1回
	5月	第2章 古墳とヤマト政権	・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて学びます。飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを学びます。	○	○		
	6月	第3章 律令国家の形成	・律令にもとづく国内統治体制について学びます。平城京における政治動向について土地政策も含めて学びます。天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開について学びます。東アジアとの関係を踏まえて弘仁・貞観文化を学びます。	○	○		
		第4章 貴族政治の展開	・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について学びます。大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化としての国風文化の展開について学びます。地方政治の展開と武士の成長過程について学びます。	○	○		
	7月	歴史資料と原始・古代の展望		○	○	○	
2 学 期	8月	第5章 院政と武士の躍進	・院政期前後の土地支配形態を踏まえ、院政期の政治・経済などを学びます。国際関係・文化の変化を踏まえ、平氏政権の特性について学びます。	○	○	○	第2回
	9月			○	○		
	10月			○	○		
	11月	第6章 武家政権の成立	・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程について学びます。モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを学びます。庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運がうまれたことを学びます。	○	○		第3回
	12月	歴史資料と中世の展望		○	○	○	
3 学 期	1月	第7章 武家社会の成長	・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて学びます。諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開について幅広く学びます。応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及について学びます。	○	○	○	第4回
	2月	第8章 近世の幕開け	・大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえ、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響について学びます。織田信長・豊臣秀吉の統一事業について、その特色と意義を学びます。新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、時代背景を踏まえて学びます。	○	○		
				○	○		
	3月	歴史資料と近世の展望		○	○	○	

学習の方法	授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して、日本の歴史の流れを整理・理解していきます。人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年4回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、基礎知識の整理をはかることが必要です。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。日本史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に勘案して評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	公民	科 目	公共	学年	第 2 学年	類型	共通
単位数	2 単位	教科書	改訂版 公共（数研出版）				
副教材	フォーラム公共2026（とうほう）						

学習目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済に関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断して、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論する力を養っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
------	---	---	---

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4 月	第 1 章 公共的な空間をつくる私たち	・青年期や先人の取組や知恵について学習し、公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探究する。	○	◎	○	第 1 回
	5 月	第 2 章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	・近代・現代の先人の考え方についての学習をもとに、主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目し、課題追究したり解決したりする活動を通して、選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身に付ける。	○	◎	○	
	6 月	第 3 章 公共的な空間における基本原理	・法などの社会規範の役割や民主政治のあゆみ、日本国憲法の三大原則を学習し、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して民主社会に主体的に生きる人間の在り方生き方について思索を深める。	◎	○	○	
	7 月						
2 学 期	8 月	第 4 章 現代の民主政治と政治参加の意義	・国会・内閣・裁判所の役割や司法参加の意義、選挙参加、政党の役割、地方自治の課題を学習し、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、論拠をもって表現する力を身に付ける。	◎	○	○	第 2 回
	9 月						
	10 月	第 5 章 現代の経済社会と経済活動のあり方	・現代経済のしくみや企業の役割、市場機構、金融・財政のしくみ、多様な契約及び消費者の権利と責任、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障について学習し、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、論拠をもって表現する力を身に付ける。	◎	○	○	第 3 回
	11 月						
3 学 期	12 月						
	1 月	第 6 章 国際社会の動向と日本の役割	・国際法の意義や国際連合の組織・役割、軍縮、国際紛争、国際経済のしくみ、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりについて学習し、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、論拠をもって表現する力を身に付ける。	◎	○	○	第 4 回
	2 月	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし、その課題解決に向けて協働して考察し、論拠を基に自分の考えを説明、論述する力を身に付ける。	○	◎	○	
	3 月						

学習の方法	教科書、図説、整理ノート、プリント等を活用して、倫理、政治、経済に関わる諸事象について学習します。予習は当然のことですが、特に復習に力を入れましょう。（例：教科書を読む→問題を解く→もう一度教科書を読み、解けなかった内容を理解する）用語は暗記するのではなく、それらのつながりに関心を持ち理解しましょう。また、毎日のニュースや新聞記事に目を通して、現代社会の諸事象に興味・関心を持ちましょう。
-------	---

評価の仕方	・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の知識・技能と思考・判断・表現を評価します。 ・定期考査や小テストに加え、ワークシートやレポートなどの提出物で総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。倫理、政治、経済に関する知識・理解はもちろん、社会的事象に対する興味・関心の程度、過去や現代の出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する思考力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ・数学Ｂ・数学Ｃ	学年	第２学年	類型	I 型
単位数	２・２・１単位	教科書	「数学Ⅱ」「数学Ｂ」「数学Ｃ」（啓林館）				
副教材	問題集「新課程 参考書「新課程 サクシード数学Ⅱ＋Ｂ＋Ｃ」（数研出版） NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ＋Ｂ」（東京書籍）						

学習目標	1年生で学んだ数学の基礎的・基本的な知識と技能の習熟を再度確認し、数学的な見方や考え方を 用いて、身の回りのさまざまな自然科学の事象や問題を考察し処理することができる能力を伸ばす。
------	---

評価規準	【知識・技能】 数学Ⅱ、B、Cの内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識及び、事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 数学Ⅱ、B、Cの内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 数学Ⅱ、B、Cの内容において、その考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4月	数学Ⅱ 第4章 三角関数				第1回
	5月		○	○	○	
	6月	第5章 指数関数と対数関数				
	7月	数学B 第1章 数列	○	○	○	
2 学 期	8月	数学Ⅱ				第2回
	9月	第6章 微分法と積分法	○	○	○	
	10月		○	○	○	
	11月	数学B 第2章 確率分布と統計的な推測	○	○	○	第3回
	12月	数学C 第1章 ベクトル	○	○	○	
3 学 期	1月		○	○	○	第4回
	2月	(数学Ⅱ、B、Cの演習)	○	○	○	
	3月		○	○	○	

学習の方法	・家庭での教科書の予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、復習します。 ・授業では、教科書と並行して、問題集（サクシード）の「重要例題」「問題B」「発展」を解きます。どうしても解けないときは、参考書（NEW ACTION LEGEND）を調べる、友人と研究し合う、先生に聞くなどして、必ず自力で解けるようにします。 ・家庭学習を計画的に毎日実行する習慣を身に付け、根気強く学習することが大切です。
-------	---

評価の仕方	・定期考査に加え、週末課題やノートの提出、小テストの成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、解答の板書状況などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ・数学B・数学C	学年	第2学年	類型	Ⅱ型
単位数	3・2・1単位	教科書	「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」（数研出版）				
副教材	問題集「新課程 サクシード数学Ⅱ+B+C，新課程 数学Ⅲ+C」（数研出版） 参考書「新課程 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B，数学C」（東京書籍）						

学習目標	・1年生で学んだ数学の基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟をさらに深めるとともに、数学的な見方や考え方をを用いて、身の回りのさまざまな自然科学の事象や問題を考察し処理することができる能力を伸ばす。 ・将来の専門分野において必要とされる高度な数学を学習することにより、強い興味関心をもってさらに深く学ぶことのできる資質を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 数学Ⅱ，B，Cの内容における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識及び，事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 数学Ⅱ，B，Cの内容において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 数学Ⅱ，B，Cの内容において，その考え方に興味を持つとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	数学Ⅱ 第4章 三角関数	・既習の三角比の内容をもとに、三角関数のグラフや諸性質を学び、加法定理や二倍角の公式などの利用方法を学習する。	○	○	○	第1回
	5月						
	6月	第5章 指数関数と対数関数	・指数法則や対数の性質を理解し、グラフの特徴や方程式・不等式の解き方を学習する。さらに、常用対数の有用性を学習する。	○	○	○	
	7月	数学B 第1章 数列	・等差数列、等比数列の一般項や和の求め方を学習する。また、漸化式から一般項を求める方法や、数学的帰納法の原理を学習する。	○	○	○	
2 学 期	8月	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法	・微分法概念について学習し、微分係数や導関数の意味を理解する。また、導関数の増減から関数のグラフを描く方法を習得する。	○	○	○	第2回
	9月		・不定積分や定積分について学習し、様々な図形の面積を求める方法を習得する。また、微分や積分の考え方が物理現象にも役立つことを学ぶ。	○	○	○	
	10月	数学B 第2章 統計的な推測	・確率変数とその分布、統計的な推測について学習し、それらを不確定な事象の考察に活用できることを学ぶ。	○	○	○	第3回
	11月						
3 学 期	12月	数学C 第1章 ベクトル	・ベクトルの概念を学び、既習のさまざまな平面図形の性質を、ベクトルを用いて表現する方法を学ぶ。	○	○	○	第4回
	1月		・空間座標を導入することにより、ベクトルの世界を拡張し、球面の方程式などを学習する。	○	○	○	
	2月	(数学Ⅱ、B、Cの演習)	・演習においては、基本的な問題を解くことにより重要事項を再確認し、応用的な問題演習で論理的思考力を養うとともに、実力を身に付ける。	○	○	○	
	3月						

学習の方法	2年生の数学の授業では、1年生で学習した内容を基礎としながら新しい概念を学んでいきます。学習内容は難しくなり、授業の進度も速くなりますので、予習が必須です。予習で、理解できるところとできないところをはっきりさせ、授業中に理解するように努めましょう。理解できないところは個人的に質問して解決するとよいでしょう。各課題の問題研究、模試や考査問題の解き直しを習慣付けて、解法を定着させてください。多くの問題に接し、数学のセンスを磨いていきましょう。
-------	---

評価の仕方	・定期考査に加え、週末課題やノートの提出、小テストの成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、解答の板書状況などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理 科	科 目	物理基礎	学年	第 2 学年	類 型	Ⅱ 型 (含GLコース)
単位数	3 単位	教科書	改訂版 物理基礎（数研出版）				
副教材	セミナー 物理基礎＋物理（第一学習社）						

学習目標	・物理や物理現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。 ・物理基礎の学習を通して、物理の基礎基本の定着を目標とする。
------	---

評価規準	【知識・技能】 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 物体の運動と様々なエネルギーから問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	---	---	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1編 運動とエネルギー	・物理量の測定や扱い方を学ぶ。 ・運動する物体と静止している物体が持つエネルギーの関係を観察・実験を通して理解を深める。 ・力の性質を学び、力が働いた場合の物体の運動について学ぶ。 ・仕事とは何か、摩擦力が働く場合と働かない場合での力学的エネルギーについて学ぶ。	○		○	第 1 回
	5月	第1章 運動の表し方			○	○	
	6月	第2章 力と運動			○	○	
	7月	第3章 仕事と力学的エネルギー		○	○		
2 学 期	8月	第2編 熱	・エネルギーは現代の科学技術や私たちの生活を支えていることや、熱の本質とそのエネルギーとの関係を学ぶ。 ・波とは何か、波はどのように伝わるのかを学ぶ。 ・静電気や電流など、電気に関わる法則を学習し、さらに発電機や電磁波について学ぶ。	○	○		第 2 回
	9月	第1章 熱とエネルギー		○	○	○	
	10月	第3編 波		○			第 3 回
	11月	第1章 波の性質					
	12月	第2章 音		○		○	
3 学 期	1月	第4編 電気	・世界的に取り組むべき問題としてエネルギーと環境を取り上げ、各種エネルギーの特性や利用方法について学ぶ。 ・問題解決学習を行い、物理基礎の知識を定着させる。		○	○	第 4 回
	2月	第1章 物質と電気		○			
	3月	第2章 磁場と交流					

学習の方法	・暗記のみにとどまることなく、物理にとってその現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	・4回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	化学	学年	第2学年	類型	Ⅱ 型
単位数	2単位	教科書	改訂版 化学（数研出版）				
副教材	ニューステージ新化学図表（浜島書店） セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）						

学習目標	1 化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 生徒自身が課題を見つけ、主体的・意欲的に実験、観察を行うことで科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を深く系統的に理解する。
------	--

評価規準	【知識・技能】 物質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 物質に関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	--	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点 ①②③			定期考査
1 学 期	4月	第1編 物質の状態	・物質は原子・分子・イオン等の微細な粒子からできていることを理解し、成分としての元素の概念を理解する。 ・気体の体積と圧力・温度の間に成り立つ法則や理想気体、実在気体について学ぶ。 ・溶解のしくみや溶解量について学び、水溶液と純粋な水との物理的な性質の違いを理解する。	○	○	○	第1回
	5月	第1章 粒子の結合と結晶の構造		○	○	○	
	6月	第2章 物質の三態と状態変化		○	○	○	
	7月	第3章 気体		○	○	○	
	7月	第4章 溶液		○	○	○	
2 学 期	8月	第2編 物質の変化	・反応熱とヘスの法則について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 ・回路に流れた電気量と物質の変化量との関係についても学習する。 ・反応する物質の濃度や圧力、温度が化学反応の速さに影響を与えることを学ぶ。 ・可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味を理解する。	○	○	○	第2回
	9月	第1章 化学反応とエネルギー		○	○	○	
	10月	第2章 電池と電気分解		○	○	○	第3回
	11月	第3章 化学反応の速さとしくみ		○	○	○	
3 学 期	12月	第4章 化学平衡		○	○	○	第4回
	1月	第3編 無機物質	・無機物質について観察・実験を行うとともに、日常生活に関連付けたり、化学工業と関連付けたりすることで理解を深める。 ・無機物質の性質や反応などを、元素の周期表と関連付けて思考、判断する。 ・遷移元素の性質が典型元素と異なることに注意しながら、性質を理解する。	○	○	○	
	2月	第1章 非金属元素		○	○	○	
	3月	第2章 金属元素（Ⅰ）		○	○	○	
	3月	第3章 金属元素（Ⅱ）		○	○	○	

学習の方法	化学は、化学基礎における物質の構成と性質・化学変化等についての学習を受け、その内容を深めるものです。毎日の授業を大切に、化学基礎との連携に留意しつつ、化学への理解をさらに深めることを考え、系統立てて学習していくことが大切です。日頃から予習・復習を確実にし、自分が何をやるのか理解してから臨みましょう。また、科学的に探究する力や態度を育てるためには、実験や観察を積極的に行うことが大切です。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、授業中に行う小テストや提出物（実験ノートなど）を総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や実験への参加姿勢も含めて総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物基礎	学年	第 2 学年	類型	I 型 (含GLコース)
単位数	2 単位	教科書	高等学校 生物基礎（数研出版）				
副教材	ニューステージ新生物図表（浜島書店） ニューグローバル生物基礎（東京書籍）						

学習目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	--	--	--

				学 習 計 画 及 び 内 容			評価の観点			定期考査
							①	②	③	
1 学 期	4月	1編 生物の特徴		1章 生物の特徴	・生物の機能上、構造上の単位である細胞について、観察・実験を通して理解を深める。生体とATPの関係や呼吸、光合成のしくみを理解する。		◎	○		第 1 回
	5月									
	6月	2章 遺伝子とそのはたらき			・DNAの構造や遺伝情報のしくみ、タンパク質合成過程について理解する。		◎	○		
	7月				・遺伝子と細胞分化の関係について、具体的データをもとに考えを深める。					
2 学 期	8月	2編 ヒトの体内環境の維持		3章 ヒトの体内環境の維持	・動物の体液による恒常性維持のはたらきとして、血液循環、生体防御、間脳による調節のしくみについて学ぶ。		◎		○	第 2 回
	9月				・ヒトの免疫のしくみへの理解を深め、健康への意識を高める。					
	10月									
	11月	3編 生物の多様性と生態系		4章 生物の多様性と生態系	・植物植生の遷移について環境の要因と関連付けて学ぶ。					
3 学 期	12月				・バイオームの種類が気温と降水量によって決定されることを理解し、自然保護の意識を高める。			◎	○	第 3 回
					・食物連鎖や炭素・窒素の循環を学び、生態系内のエネルギーの流れを理解する。					
	1月	学習のまとめ			・問題解決学習を行い、生物基礎の知識を定着させる。					
	2月							◎	○	
	3月									第 4 回

学習の方法	・暗記のみにとどまることなく、生物にとってその生物現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	・4回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物基礎	学年	第2学年	類型	Ⅱ型 (含GLコース)
単位数	3単位	教科書	高等学校 生物基礎（数研出版）				
副教材	ニュースステージ新生物図表（浜島書店） ニューグローバル生物基礎＋生物（東京書籍）						

学習目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査	
				①	②	③		
1 学 期	4月	1編 生物の特徴	1章 生物の特徴	◎	○		第 1 回	
	5月							
	6月	2章 遺伝子とのはたらき	◎	○				
	7月							
2 学 期	8月	2編 ヒトの体内環境の維持	3章 ヒトの体内環境の維持	◎		○	第 2 回	
	9月							
	10月		3編 生物の多様性と生態系				第 3 回	
	11月	4章 生物の多様性と生態系						
12月			◎	○				
3 学 期	1月	学習のまとめ				◎	○	第 4 回
	2月							
	3月							

学習の方法	・暗記のみにとどまることなく、生物にとってその生物現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	・4回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	地学基礎	学年	第 2 学年	類型	I 型 (含GLコース)
単位数	2 単位	教科書	改訂版 高等学校 地学基礎 (数研出版)				
副教材	スクエア 最新図説地学 (第一学習社)						

学習目標	・地学や地学現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育むとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。 ・地学基礎の学習を通して、地学の基礎基本の定着を目標とする。
------	--

評価規準	【知識・技能】 惑星としての地球についての観察・実習などを通して、地球の形と大きさ、地球内部の層構造、プレートの運動について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実習などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 惑星としての地球について、問題を見いだし見通しをもって観察・実習などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 惑星としての地球について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	--	---	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1編 活動する地球	・地球内部は構成物質の違いから、地殻・マントル・核に分けられること、および変形のしやすさによる違いから、リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。 ・地球の表面は、十数枚のプレートでおおわれており、それぞれが別の方向に動いているため、その境界で様々な地殻変動が起こることを理解する。 ・地震発生のしくみを、プレート運動と関連付けて学ぶ。また、地震波の性質や、プレート境界と地震の分布の関係についても理解する。火山噴火の様式を学び、火山によってもたらされる災害を知ることとともに思慮について理解する。 ・地層の重なり方や変形のしかた、堆積構造を観察することで、地層の本来の層序や堆積環境がわかることを理解する。	○	○		第1回
	5月	第1章 地球の構造			○	○	
	6月	第2章 プレートの運動		○		○	
	7月	第3章 地震 第4章 火山		○		○	
2 学 期	8月	第2編 移り変わる地球	・地球環境や古生物について調べる方法や地質時代の区分のしかたを理解し、時間の長さを感覚的にとらえる。また、人類の進化についても学ぶ。 ・地球の大気が、気温の変化から4つの層に分けられていることを理解する。特に、対流圏で様々な気象現象のほとんどが起きていることを学ぶ。 ・大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。 ・地球を構成する大気、海洋、固体地球、生物の間には絶えず相互作用があることを踏まえ、気候の自然変動や人間活動による環境変化を、全地球的な空間スケール、および長期的な時間スケールでとらえて理解し、考える力を身につける。環境保全を図りながら、持続可能な開発をする必要があることも学ぶ。 ・太陽系を構成する天体について理解を深める。惑星の特徴、太陽の表面のようすやエネルギー源、太陽の活動について学ぶ。 ・銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。また、ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。		○	○	第2回
	9月	第2章 古生物の変遷と地球環境		○	○		
	10月	第3編 大気と海洋			○	○	第3回
	11月	第1章 地球の熱収支		○		○	
3 学 期	12月	第2章 大気と海水の運動			○	○	第4回
	12月	第4編 地球の環境		○		○	
	1月	第1章 地球の環境と			○	○	
	2月	日本の自然環境		○		○	
3 学 期	2月	第5編 太陽系と宇宙	・太陽系を構成する天体について理解を深める。惑星の特徴、太陽の表面のようすやエネルギー源、太陽の活動について学ぶ。		○	○	第4回
	3月	第1章 太陽系と太陽		○		○	
3 学 期	3月	第2章 宇宙の誕生	・銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。また、ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。	○		○	

学習の方法	・暗記のみにとどまることなく、地学にとってその現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	・4回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	保健	学年	第 2 学年	類型	共通
単位数	1 単位	教科書	新高等保健体育（大修館書店）				
副教材	図説 新高等保健体育（大修館書店）						

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
------	---

評価規準	【知識・技能】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとしている。
------	--

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査	
			①	②	③		
1 学 期	4月	思春期と健康	・思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ・自分の行動への責任感や異性理解と尊重の必要性について理解する。 ・結婚生活と健康との関係について理解する。 ・受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。 ・家族計画の意義について理解する。 ・加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。 ・高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取組について理解する。	○	○		
	5月	性意識の変化と性行動の選択		○	○		
	6月	結婚生活と健康		○	○		
		妊娠・出産と健康					
	6月	家族計画		○	○		
7月	加齢と健康	○	○				
2 学 期	8月	高齡社会に対応した取り組み	○		○	第 1 回考査	
	8月	働くことと健康	・働くことの意義と働き方の多様化について理解する。 ・労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。 ・大気汚染や水質汚濁、土壌汚染による健康への影響について理解する。 ・生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。 ・人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。	○	○		第 3 回考査
	9月	労働災害の防止		○	○		
	10月	働く人の健康づくり		○	○		
	10月	大気汚染と健康		○	○		
	11月	水質汚濁・土壌汚染と健康		○	○		
	11月	健康被害を防ぐための環境対策		○	○		
12月	環境衛生に関わる活動	○		○			
3 学 期	12月	食品の安全性と健康	○	○	第 4 回考査		
	12月	食品の安全性を確保する取り組み	○	○			
	1月	保健制度とその活用	・保健行政の役割について理解する。 ・医療保険の仕組みについて理解する。 ・医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 ・日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行なわれていることを理解する。 ・健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解する。	○		○	第 4 回考査
	1月	医療制度とその活用		○		○	
	1月	医薬品の制度とその活用		○		○	
	2月	様々な保健活動や対策		○		○	
	2月	誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり		○		○	
3月	まとめ	○		○			

学習の方法	教科書と副教材を中心に授業を行います。授業の中でそれぞれの内容に即して設定した学習課題を自らの手で調べるなどして、さらに理解を深めていきます。 また、学習した内容を単に暗記に留めるに終わらず、日常生活の中での実践力につなげて、自らが課題解決できる力を養っていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、課題学習の内容や提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。保健に関する知識理解及び興味関心の程度、日常生活における健康・安全に対する思考力や実践力などを総合的に判断します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育	学年	第 2 学年	類型	共通
単位数	2 単位	教科書	新高等保健体育（大修館書店）				
副教材	図説 新高等保健体育（大修館書店）						

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。
------	--

評価規準	【知識・技能】 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、ひとり一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。
------	--	---	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	体づくり運動	・東高体操や集団走を正確に身に付ける。 ・体ほぐしの運動や体力を高める運動を通して、その方法を学習する。 ・テニス、ソフトボール、バレーボール、バドミントンの中から選択し活動する。 ・安全に留意する態度を養うとともに自らの体力に応じて学習する。 ・スポーツにおける技術と戦術・戦略について学習する。 ・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。		○	○	
	5月	球技選択Ⅰ		○		○	
	6月						
	7月						
		体づくり運動・ダンス		○		○	
2 学 期	8月	体づくり運動・ダンス	・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。 ・テニス、ソフトボール、バレーボール、バドミントンの中から選択し活動する。ゲーム運営法・審判法を身につける。 ・テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントンの中から選択し活動する。 ・運動技能の上達過程と練習の考え方について学習する。		○	○	
	9月	球技選択Ⅰ		○		○	
	10月						
	11月	球技選択Ⅱ			○	○	
		体育理論					
	12月	球技選択Ⅱ		○	○		
3 学 期	1月	体づくり運動 持久走	・持久走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わう。 ・テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントンの中から選択し活動する。ゲーム運営法・審判法を身につける。 ・体力トレーニングと運動での危険予知や安全確保について学習する。	○		○	
	2月	球技選択Ⅲ		○		○	
	3月	体育理論		○	○		

学習の方法	・本校独自の「東高体操」や「集団走」などみんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切に授業を行っています。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。 ・運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。
-------	--

評価の仕方	各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲や運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度・リーダーシップなどを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅡ	学年	第2学年	類型	I 型
単位数	4 単位	教科書	Heartening English Communication Ⅱ（桐原書店）				
副教材	必携英単語LEAP（数研出版）						

学習目標	・聞いたこと、読んだこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめることができる。 ・聞いたこと、読んだこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、発表することができる。 ・聞いたこと、読んだこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、ある程度まとまりのある文章を書くことができる。 ・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・説明、評論、物語、随筆などを速読して、概要をとらえることができる。
------	---

評価規準	【知識・技能】 ・各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、話したり書いたりする技能を身に付けている。 ・英文を読んだり聞いたりすることによって、その内容を理解する技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 ・本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり書いたりできる。 ・本文に関連したテーマについて、50語以上で自分の意見を話したり書いたりできる。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり書いたりしようとしている。 ・本文に関連したテーマについて50語以上で自分の意見を話したり書いたりしようとしている。
------	---	--	--

学 習 計 画 及 び 内 容			評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4月	L.1 Laughter without Borders ・海外で狂言を広めている外国人について説明する	○	○	○	第1回
	5月	L.2 The Ongoing Voyages of Curry ・日本のカレーがインドカレーからどのような変遷をたどったか説明する	○	○	○	
	6月	L.3 The World's Most Bicycle-friendly City ・自分の住む地域で、自転車利用を妨げる要因を挙げ、その解決策について表現する	○	○	○	
	7月	L.4 Can You Feel Emotions in Text? ・日本と世界の絵文字の違いについて、友人に伝える	○	○	○	
	7月	L.5 Background Music and Sharks ・サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について説明する ・効果的なBGMの提案書を書く	○	○	○	
2 学 期	8月	L.6 The Benefits of Play ・ゲームをすることの良さ悪しについて、自分の考えを論理的に表現する	○	○	○	第2回
	10月	L.7 Nursing in a War Zone ・ボランティア活動の面接で情報や考えを伝え合う	○	○	○	
	11月	L.8 Hawaii's Debate about a Sacred Mountain ・科学優先か伝統優先かのミニ・ディベートをする	○	○	○	第3回
	12月	L.9 The Next Wave in Artificial Intelligence ・ロボットとの共生についてエッセイを書く	○	○	○	
3 学 期	1月	L.10 What If There Were No Moon? ・月が地球に与える影響について科学的に説明する	○	○	○	第4回
	2月	学習のまとめ	○	○	○	
	3月					

学習の方法	a ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 b ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身に付ける。 c 音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。
-------	--

評価の仕方	a ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 b ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 c 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト d 単元テスト、単語テストなどの小テスト
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	--

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅡ	学年	第 2 学年	類型	Ⅱ 型
単位数	3 単位	教科書	Heartening English Communication Ⅱ（桐原書店）				
副教材	必携英単語LEAP（数研出版）						

学習目標	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめることができる。 ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、発表することができる。 ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、ある程度まとまりのある文章を書くことができる。 ・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・説明、評論、物語、随筆などを速読して、概要をとらえることができる。
------	--

評価規準	【知識・技能】 ・各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、話したり書いたりする技能を身に付けている。 ・英文を読んだり聞いたりすることによって、その内容を理解する技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 ・本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり書いたりできる。 ・本文に関連したテーマについて、50語以上で自分の意見を話したり書いたりできる。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり書いたりしようとしている。 ・本文に関連したテーマについて50語以上で自分の意見を話したり書いたりしようとしている。
------	---	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4月	L.1 Laughter without Borders ・海外で狂言を広めている外国人について説明する	○	○	○	第 1 回
	5月	L.2 The Ongoing Voyages of Curry ・日本のカレーがインドカレーからどのような変遷をたどったか説明する	○	○	○	
	6月	L.3 The World’s Most Bicycle-friendly City ・自分の住む地域で、自転車利用を妨げる要因を挙げ、その解決策について表現する	○	○	○	
		L.4 Can You Feel Emotions in Text? ・日本と世界の絵文字の違いについて、友人に伝える	○	○	○	
	7月	L.5 Background Music and Sharks ・サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について説明する	○	○	○	
2 学 期	8月	・効果的なBGMの提案書を書く				第 2 回
	9月	L.6 The Benefits of Play ・ゲームをすることの良し悪しについて、自分の考えを論理的に表現する	○	○	○	
	11月	L.7 Nursing in a War Zone ・ボランティア活動の面接で情報や考えを伝え合う	○	○	○	
		L.8 Hawaii’s Debate about a Sacred Mountain ・科学優先か伝統優先かのミニ・ディベートをする	○	○	○	
	12月	L.9 The Next Wave in Artificial Intelligence ・ロボットとの共生についてエッセイを書く	○	○	○	
3 学 期	1月	L.10 What If There Were No Moon? ・月が地球に与える影響について科学的に説明する	○	○	○	第 4 回
	2月	学習のまとめ	○	○	○	
	3月					

学習の方法	a ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 b ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身に付ける。 c 音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。
-------	--

評価の仕方	a ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 b ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 c 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト d 単元テスト、単語テストなどの小テスト
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	--

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅱ	学年	第2学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	Crown Logic and Expression Ⅱ（三省堂）				
副教材	Insight（啓林館）						

学習目標	・与えられた条件に合わせて自分の意見を英語で話すことができる。 ・英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すことができる。 ・論点や根拠などを明確にしながら書くことができる。 ・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを通して、情報や考えなどの要点や詳細を説明できる。 ・説明、評論などを精読して、要点や詳細をとらえることができる。		
評価規準	【知識・技能】 テーマについて、必要な背景知識・語彙・表現を用いて自分の考えを述べる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 テーマについて、自分の考えを理由や根拠とともに伝えたり、相手の質問に答えたりしている。	【主体的に学習に取り組む態度】 テーマについて、自分の考えを理由や根拠とともに伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4月	Lesson1 人生・生き方/ディスカッション、手紙を書く Dear Mayor, ・挨拶する、自己紹介する、希望を述べる、依頼する、許可を求める	○	○	○	第1回
	5月	Lesson2 漫画・芸術/ディスカッション、エッセイを書く Manga Find Ever-Increasing Global Fans ・説明する、感動を表す、主張と理由を述べる、締めくくる	○	○	○	
	6月	Lesson3 日本文化・異文化理解/ディベート、エッセイを書く Japanese Baths ・話題を導入する、反論する、主張と理由を述べる	○	○	○	
	7月	Lesson4 人物・科学/ディスカッション、レポートを書く Innovators of the World ・説明する、意見を述べる	○	○	○	
		Lesson5 社会問題/ディスカッション、エッセイを書く	○	○	○	
2 学 期	8月	Don't Throw Us Away! ・話題を導入する、主張と理由を述べる				第2回
	9月	Lesson6 都市計画/ディスカッション、エッセイを書く Urban Development 話題を導入する、説明する、理由を述べる	○	○	○	
	10月	Lesson7 料理・食文化/ディスカッション、エッセイを書く Food and Culture in the World 話題を導入する、説明する	○	○	○	
		Lesson8 スポーツ/プレゼンテーション、ディスカッション、エッセイを書く The Potential for E-Sports 話題を導入する、説明する、理由を述べる	○	○	○	第3回
	11月	Lesson9 生態系・環境問題/ディスカッション、エッセイを書く	○	○	○	
	12月	Lesson10 教育/スピーチ、ディスカッション All Gone? 話題を導入する、主張と理由を述べる	○	○	○	
3 学 期	1月	The New Normal at School 話題を導入する、説明する、理由を述べる	○	○	○	第4回
	2月	学習のまとめ スピーチ・プレゼンテーション ディスカッション ディベート ライティング	○	○	○	
	3月					

学習の方法	a ペアワーク、グループワーク、ディベートなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 b ワークシートやワークブックに取り組み、英語に関する知識を身につける。 c 音読活動を通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。
-------	--

評価の仕方	a ペアワーク、グループワーク、ディベートなどの言語活動への参加状況や取組 b ワークシートやワークブックなどの課題への取組 c 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト d 単元テスト、単語テストなどの小テスト
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---